
ラーメン少女ポッキー

ごはんライス

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

ラーメン少女ポツキー

【Nコード】

N1648N

【作者名】

ごほんライス

【あらすじ】

20枚完結予定です。ラーメン屋の娘ポツキー（女子小学生）と、バイト、パン山のちよっぴりへんテコな恋物語。パン山はジャム職人になりたいのになぜラーメン屋でバイトしてんだ???

はははは。なんや。そのタイトル。それはともかく、始まったで。「ラーメン少女ポッキー」。面白いから最後まで観てってや。つまらなくて帰りたくなってもカネだけは払っていつてや。

「お父ちゃん。ラーメン作って」
「いいよ」

ポッキーの父親は、ラーメン職人である。山本スパゲッティという名前だ。お察しの通り、元イタリア料理店のコック長である。現在は、ラーメン屋「ちぢれ亭」の店長をしている。店長といっても従業員はポッキーの母親とアルバイトのパン山くんだけだ。

「おい。パン山。作れ」

「ええっおやつさんが作るんじゃないんすか」

「ばか。お前の修行のためだ」

「オレ、将来はジャム職人になりたいんだけどな」

パン山くんは、最近これが口癖になっている。無論本気でジャム職人になりたいわけではない。仕事がつらいのでそついうことを言ってるのだ。

「パンさん。お願い」

「うん！」

ポッキーに頼まれると断れないパン山くん。惚れた者の弱みつてやつだ。もつとも、ポッキーはまだ小学生なのでつき合つとかはできなけれどさ。

「あはっパンちゃんは本当、ポッキーに弱いわねえ」

笑う母親。山本節子。元自衛官である。第二次日韓戦争で敵を三人殺した。

パン山は、本当は知ってる。山本スパゲッティは今からラジオで競馬を聞きたいから、パン山に仕事を押しつけているのだ。新聞と赤ペン持つてるからすぐわかる。

パン山は早く家に帰ってアニメ観たいのにさ。

母親、節子は今から自衛隊の基地へ行くという。節子は週に何回か基地で、柔道を自衛官たちに教えているのだ。

ポッキーがカウンターの向こうから「早く作ってよう。パンさん」

と甘ったるい声で言う。

「う、うん。わかったよう」

パン山は、ミヨウミマネでやってるのだが、実は今じゃ親父より腕がいい。親父はさぼってばっかでヘタクソになってる。

さっさと湯を切る。

「できた！ポッキー。食べてみて」

「うん！」

ポッキーは割り箸を割り、スープを一口すすった。

「げ。なんじゃこれ」

ポッキーはしかめ面した。

「えへへへへ。実験したんだ。ヨーグルト味だよ」

ポッキーは、うげえという顔をしながら、今度はずるずると麺をすすった。

「げげげ。なんじゃい。なんじゃい」

「えへへへえ。斬新でしょ。麺にチョコレートを練りこんだのさ」

ポッキーはかんかに怒ってる。

「パンさんの馬鹿！おいしかったらキスしてあげようと思ったのに、もう知らない！」

「そ、そんなあ」

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能たんのうしてください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n1648n/>

ラーメン少女ポッキー

2010年10月9日22時51分発行